

コミュニティ ふっ

私と人とまちの間に

2016.NOV
111号 11

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

まちが、私を待っている。

- 2 「なんとかならへんか」を、なんとかする男
- 3 “好き”は私も時代も超える。
- 5 ♪ 今日もすてきな一日でありますように♪
make a song ~草津への思い、歌にのせて~
- 7 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 8 みんなとめん・めん 「変わるもの・変わらないもの」
- 9 より道こ道 「北山田」
- 10 そのまちに…ICT/事業団からのお知らせ
- 11 草津Q/Next きみたちの草津/ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第23回 「八十六歳のお嬢さん」
読者の声

彫る。そして、彫る。

彫る。じっと見つめて、また彫る。時間だけが静かに流れます。こういう心境を「無心に」というのが「一心に」というのか、どっちも合っているような、どちらも違うような。能面って見る角度によって表情が違ふ。笑い、悲しみ、怒り、憂い…それは見る人の心を映しだしているかのようです。
心しずかに、秋です。 (まちづくりセンターにて)

秋から冬へと移りゆく11月から12月。日ごとに北風が冷たくなる中、ふと温かい陽気にホッとする日があります。小春日和。春ではなく、この時期のこんな陽気をいいます。やがて寒さが本格的な季節を迎えます。



イメージ

あなたの趣味はなんですか？ 特技は？

こう改まって聞かれると答えにくいものですね。人は誰でも何かしらの趣味や経験を持っています。それは、ときには自分ですら気づかないことがあるかもしれません。趣味や経験、特技、資格はもちろんスキルアップにつながったり、あなたの人生を豊かにしてくれます。その趣味や特技があなたのまちや、まちの人の幸せにつながるとしたらどうでしょう。

今回はそんなお話。まちはあなたを待っています。



イメージ

FEATURE

「なんとかならへんか」を、なんとかする男

池田良彦さん（82歳 草津元町）

歳を重ねると、家の中だけでなく、まちの中でも「なんとかならへんか」って言いたくなるが増えます。たとえばゴミの集積所は今日もカラスに荒らされました。たとえば、毎朝、手を合わせに行くお寺さんの階段がきつくなってきた。毎日のように生まれる「なんとかならへんか」をなんとかしてしまおう男が草津元町にいました。池田良彦さんです。

大工さんかと思いきや

草津元町ではちょっとした困りごとがありました。それは会館前や橋の隅にあるゴミ集積所。ネットはかけるものの、後から後からカラスが荒らしてしまふ。「なんとかならへんか」。そんな声が届いた先が池田さんです。不要になったサッシを使って立派なゴミ集積所ができました。これでカラスだけでなく、雨の日だって安心です。あまりのデキの良さに、もとの仕事は大工さんかと思いきや、実は日本の成長と共に歩んできた鉄道マンでした。

生まれも育ちも、ここ草津元町の池田さんは学校を卒業して地元の木工会社を経てすぐに国鉄（JR）に就職、定年まで勤め上げました。国鉄では様々な部署を経験されました。担当業務が変わるたびに着実に技術を身につけていく池田さん。定年後は地元の工務店で第二の人生です。

サッシや障子の取り付けなど、ここでも新たな技術を身につけながら、「多くの人と出会ったことが人生のプラスになった」と池田さんは振り返ります。どんな「なんとかならへんか」にも、何とかしてしまふ池田さんの技術はこうして培われたんですね。

いざ独りになると

池田さんが国鉄にいた時期は日本の高度経済成長期。池田さんも正に日本の成長を支えた一人でした。当然、モーレツに仕事に追われ、生まれ育った草津に関心を持つヒマさえなかつたといえます。

定年を迎え草津に戻ると、気になることが少しずつ増えてきました。古い家はなくなりマンションが建っています。道路で遊ぶ子どもたちは姿を消し、商店も減りました。なにより昔から居る人たちがずいぶん歳を重ねていました。

「自分にできること……。」

そんなころ、悲しいデキコトもありました。長年連れ添った奥さんが亡くなったのです。いざ独りとなると、一日中、家にいるなんてこともありません。自分から意識して外に出なければ、そのうち出られなくなってしまうことに気づいた池田さんは、自分から近所の家を訪ねたり、町内会の役を引き受けながら気づいたものから直しはじめました。

たとえば自治会館のイス。正座がきつくなってきた高齢者用に背の低いイスを町内会で購入しましたが、4つの脚が畳を傷めてしまいます。押入れの出し入れも大変です。すべての脚に重みを分散させるためのバーを取りつけ、イスをまとめて片づけられるようキャスター付きのケース、押入れにはそれを滑らせるレールも作りました。

また、近所の高齢者が毎日お参りに行くお寺さん。本殿の階

段が急で高齢者にはきつい。そこで段差の緩やかな階段を端に取りつけました。住職からは目隠し用の扉や掲示板の設置も頼まれました。そのうち、年老いたご近所さんからも「なんとかならへんか」といろいろ頼まれるようになりました。手すりをつけて欲しい。



池田良彦さん

しゅほう【手法】物事のやり方、特に芸術表現の方法技巧
 しゅみ【趣味】①専門としてでなく、楽しみとして愛好する事柄。②物事から感じ取られるおもむき。
 味わい。情趣。
 しゅみやく【主脈】山脈・鉅脈・葉脈などの、中心となる主要なすじ。
 じゅみよう【寿命】命のある間の長さ。転じて、物がこわれずに働く期間



棚をこしらえてほしい。足継ぎ台ができないか。障子が動かない…。

高齢者を支えるのは高齢者

「頼まれたら、あるモノや安い材料で『なんとかならへんか』って考える。材料代だけ負担してもらって、手間賃はいただきません。使ってくれたら嬉しいし、喜んでもらえたらもつと嬉しい。作業に行つたときにする何気ない話も楽しいもんです。こうしてい

ると毎日にハリが出てきます。家の中でテレビばかり見てたら体を悪くしてしまいそつだしね。」

池田さんがつくる「つひとつには使う人のことを第に考えた愛情がにじみ出ます。丁寧な仕事ぶりには、使う人の安心感だけでなく、池田さん自身の充実した日々の様子まで伝わってくるようです。これまで仕事を通じて得たたくさんの知識や技術。それは池田さんや家族の暮らしを支え、日本の成長を支え、今では

まちのつながりを支えています。なにより、池田さんのやりがいにつながっています。



もちろん池田さんは地域社会のためなどと大上段には構えません。ごく普通の行いなのです。地域で困つた高齢者の助けとなるのは、若い世代だけでなく池田さんのような元気な高齢者なのかもしれません。
 そうそう、池田さんは今、新しい宿題をもらっているとか。「買ったソファが思ったより低くて、脚を継ぎ足して欲しいって近所から言われてるんや。『なんとかならへんか』と思つてな」。
 池田さんは今日も元気です。

FEATURE

好きは私も時代も超える。

歴史好きの人つて多いですね。もしかしたら、あなたもその一人ですか。ブームになるずっと前からの歴史女々をご紹介します。本誌の「より道ご道」も執筆する石田はま子さん。
 ここ草津の歴史を「専門としてでなく、楽しみとして愛好する」石田さんの楽しみ方がちよつと素敵です。

石田はま子さん（70歳）

教科書にも載らない歴史

本能寺の変（1582）、関ヶ原の戦い（1600）、黒船来航（1853）、大政奉還（1867）…。当たり前な話ですが、歴史の授業で出てくる、国を揺るがす大きな歴史の合間に

は、それにつながる小さきさまざまな歴史が至る所で練り広げられています。それは今、あなたがいるその場所でも、です。石田さんは教科書にも載らない、そんな地域の歴史に思いを馳せ、趣味として自ら調べながら、草津市観光ボランティアガイドの一人として草

津を訪れる人に紹介しています。

「三井の晩鐘」で知られる三井寺（大津市）のすぐ近くで育つた石田さん。三井寺近江神宮白吉大社が遠足場所だったという石田さんが歴史に興味を持ったのは、ごくごく自然なことでした。



結婚で草津に来ました。子育てや家事に追われ、自分の時間ができたのは子育てが落ち着いてからのこと。そのころ、草津市では市史の編さんが行われていました。それに伴って市が編さんに携わった先生を講師とした歴史講座の参加をきっかけに、観光ボランティアとして活動を始めました。

自分の足で調べよ

「もつと、草津の歴史を知りたい：」自分の楽しみだけでなく、観光ボランティアガイドの活動が石田さんの知的好奇心を刺激します。NHK大河ドラマのテーマが決まると主人公や主要人物、

はたまた付き人まで関心を広げ、草津宿本陣での宿泊記録や草津との縁を調べます。「この時に草津宿を通っているのでは」と想像を膨らましては、草津宿街道交流館に大福帳(宿帳)の記録を調べてもらったり、資料の展示もお願いしました。自分たちは観光ボランティアガイドとして、その足跡をたどるハイキングを企画します。

気になることがあると次に進めない性分で、寝る前や朝起きてすぐに本で確かめることも度々あります。現地調査に行くときは同じように調べている人と交流し、資料を分けてもらうこともしばしば。ちよつとした発見でも、自分の仮説が実証されれば嬉しくて、それらの資料をきちんと整理して、またガイドのとき

女性の視点で思いを馳せる

ひとつたび火がつくと徹底的に調べるのが石田スタイル。ネットなどで手がかりをみつけては、図書館や街道交流館、他市の資料館で文献を紐解き、時には遠く九州まで一人で現地調査に行くこともある。高校の時の国語の先生からいつも『自分の足で調べなさい』って言われてた

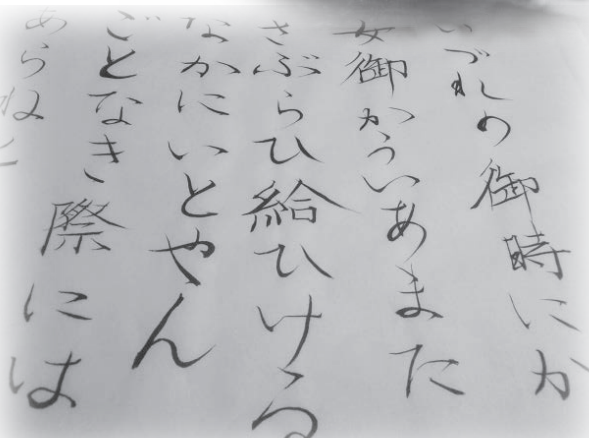
「ブームとなる前からの『歴史』に、地域の歴史を紐解く楽しさ、極意を聞いてみました。『教科書で習う歴史がまずベース。そこに地域の歴史をパズルのようにハマっていくって感じです。もしかしたら…って、仮説を立てて調べる。証拠が見つかり仮説があたっていると素直に嬉しくいし、歴史の『コマ』が繋がっていくことが楽しい。それをガイドのお客さんに伝えて、草津への理解を少しでも深めてもらえるのもつと嬉しい。」

「んだらう」って、いつも母として、女性として歴史に寄り添うと、妙に共感できるんです。」

石田さんの話からは、時代、時代で輝いていた人物も決して特別な存在ではなく、今の私たちと同じように家族や子どもに対する愛情をもつ『二人の人間』として浮かび上がってきます。

「趣味は『自分が楽しむ』ってイメージを持ってしまいましたが、その趣味がその人の満足だけでなく、市民や草津を訪れてくれた人の心に刻まれる、そして草津の歴史の隙間を埋めることで、まちの豊かさにつながる。自分と人」とまち。一人ひとりの趣味や特技は、心がけ次第でまさに『三方よし』につながる『つよゆく趣味』になることを知りました。

イメージ



のが身につけていちゃって。ケータイやネットはあくまで参考や調べるときだけに留め、やはり文献を紐解きます。独特の筆文字もずいぶんと慣れました。

私にとつての歴史上の主人公はどうしても女性になります。いつの時代のことでも、『子どもを国許に残してこの女性はどんな気持ちで草津の街道を通つたんだろう。どんな景色を見ていた



石田はま子さん

観るだけじゃもったいない! 草津宿街道交流館

岩間一水さん

石田さんは専門の私たちも驚くほど、ご自身で詳しく調べてから具体的な確認のために当館を利用いただいています。市民の方とともに草津の歴史を発掘していくことも当館の役割です。

草津宿街道交流館という「資料の調査・整理・収集と展示」のイメージがあるかもしれませんが、実は資料や文献の紹介や活用などの普及も大切な

仕事です。観光ボランティアガイドさんだけでなく、他市から草津へ越して来られた方や草津の歴史に興味を持っている方、またわが町の『町史』をつくっている方にも当館を活用いただきたい。歴史や民俗に精通した専門の学芸員もいますので気軽に相談してください。



make
a
song

♪ 今日もすてきな一日でありますように♪

♪ 草津への思い、歌にのせて♪

29 (にじゅうきゅう) : 長谷川憲一さん (45歳)

♪君とこの街で 出会えてよかった どんな時にでも 前を向けるから
君とこの街で、出会えてよかった 心の ふるさと くさつで…♪心地よく耳に残るメロディ、草津への思いあふれる詞は一度聴いたら
思わず口ずさんでしまいます。今、市内の色々な催しで歌われているこの
「出会いの街、くさつ」をご存知ですか。実はこの曲、市役所の職員さんが趣味で作ったって聞いたらビックリし
ます？

堤防で、ふと浮かんだ曲

今、草津では様々な草津のオ
リジナル曲が歌われています。
「草津川に捧ぐ」「まめバスに
のつて」「たび丸音頭」「心のあお
ばな」…中でも特によく耳にす
る「出会いの街、くさつ」。これ全
部、作詞作曲したのは29 (にじゅ
うきゅう) というバンドの長谷川
憲一さん。実は彼、市役所の職員
さんです。しかも専門は建築。

建築行政に関わる傍ら、趣味
でつくったこれらの曲が今、草津
の市民創作ミュージカルや色々
な催しなどでよく聴かれるよう
になりました。

建築技師として市役所に勤
める長谷川さんは現在45歳。音
楽との出会いは子どものころに

習ったピアノ。大学では建築を専
攻する傍ら、友人たちとバンド活
動。いつも音楽を身近に感じなが
らも、あくまで趣味としてつき
あつてきました。

市役所に入り、建築の仕事をし
ながら若手職員3人でバンド
「29」を結成し、カバー曲やオリ
ジナル曲を宿場まつりなどで演
奏することもありました。草津
を題材にした最初の曲は「草津
川に捧ぐ」。出勤途中に草津川の
堤防沿いを歩いていたら急に
歌詞とメロディが浮かび、慌てて
持ち歩いているICレコーダーに
吹き込んだとか。こうしてオリ
ジナル曲を作つては、バンドで演
奏してみたり、自分のノートに書
き込んだまま陽の目をみない曲
もありました。

子どもたちの歌に胸熱く

きっかけは、平成23年に思いも
よらぬ時に訪れます。草津アミ
カホール(草津市コミュニティ事
業団)が草津をモチーフにした市
民創作ミュージカルを創ること

になり、長谷川
さんが2年前
のまめバス運行
に合わせて作つ
た「まめバスに
のつて」の存在

を知ったプロデューサーの澤孝子
さんから「ミュージカルに使わせ
てほしい」との依頼があつたこと
です。

澤さんとの会話は弾み、他に
も「草津川に捧ぐ」「出会いの街
くさつ」のデモテープを渡し
ました。曲を聴いた澤さんはプロの
作曲家によるアレンジを行った
上で、ついに市民創作ミュージカ
ルで長谷川さんの曲が披露され
たのです。「多くの子どもたちが
、プロでもなんでもない私が趣味
でつくった歌をステージで歌つて
踊ってくれている。それだけでも
嬉しいのに、たくさん練習を重
ねてくれたことを思うと、熱いも
のがこみ上げてきました。一緒に
観に行つた嫁さんも隣で泣いて
いました。本当に嬉しかったです。」

浮かんだ
フレーズや
コードが詰まった
ノート
直す、そして直す

写真：大條紘史(編集ボランティア)

長谷川憲一さん

心のふるさと

草津で育った長谷川さんは、その大好きな草津を自分の職場にしました。そんな長谷川さんがつくる草津の歌に込める思いとは。

—西沢川で育ち、第二小学校に通っていました。桜の季節には先生がクラスで旧草津川の堤防へ散歩に連れて行ってくれました。旧草津川は小さなころから

の思い出の場所。「出会いの街、くさつ」では、どんな景色が変わっていく草津を思いつくりました。♪心のふるさと、くさつ♪というフレーズに、もつともつと草津を好きになって欲しいとの願いを込めました。生まれ故郷だけでなく、職場や学校などで、たまたま草津と縁があった人にも「心のふるさと」って思ってもらえたら嬉しいですね。



「心のあおばな」はミュージカルのためにつくった曲です。あおばなは夏の朝に咲く青い花。地獄花と呼ばれるほど、栽培農家の方にとっては大変な苦勞があったみたいですね。

も、この小さくも可憐に咲く花に、当時の草津の人たちがどんな思いを込めたのか、できれば前向きなイメージだったらいいなどの思いを込めて♪今日もすてきな一日でありますように♪って詞を入れました。でも、この作品を書いた時には「伝わるかな」と自信もなく、苦しみながらプロの先生に託した曲だったんです。—

詞を書くときにはいつもわかりやすい言葉で心がけるといって長谷川さん。「出会いの街、くさつ」は今、若いママ世代の間で歌われる機会が増えているみたいです。「ママ世代が気に入ってくれるとは思っていませんでした。歌は、やっぱり歌ってもらえてこそ生きるから嬉しいですね。僕の音楽はあくまで趣味でつくったもの。それをプロの作曲家の先生たちのアレンジなど、多くのサポートがあつて皆さんに届けられるものになった。こんなありがたいことはないですね。」

あくまで恐縮しきりの長谷川さん。こんな職員さんがいる草津市はきつと良いまちです。このまちに縁がある一人ひとりにとって、草津が「心のふるさと」になりま

♪ 出会いの街、くさつ ♪

君とこの街で 出会えてよかった
どんな時にでも 前を向けるから
君とこの街で 出会えてよかった
心の ふるさと くさつで…
桜の花が咲きほこる
草津川の土手を君とゆく
見える街並み 吹き抜ける風
いつまでも いつまでも…

♪ 心のあおばな ♪

草津に生まれて 草津に育ち
やさしく揺れながら
みんなを見守ってくれる
あおばなの花咲く このまちに
朝日がまぶしく ふりそそぐ
今日も素敵な一日でありますように

「出会いの街、くさつ」
「心のあおばな」などをプロデュース

澤孝子さん (草津アートセンター・プロデューサー)

長谷川さんのメロディはすう〜と耳に入ってくる良い曲ばかり。「草津川に捧ぐ」の歌詞♪大きな体横たえて…皆を見てくれる♪なんて、長谷川さんの優しさや草津への思いが表れています。アオバナを題材にしたミュージカルを創ることになって、「こんな歌を書いている人なら」と思い、お願いしました。

詞はもちろんプロでも書けますが、この曲はぜひ、草津に思いをもっている人をお願いしたいとの私のこだわりがありました。



イメージ

「今日もすてきな一日でありますように」とアオバナが私たちを応援してくれる詞は想像以上でした。長谷川さんが歌に託した思いを舞台から伝えようと、子どもたちも一生懸命に練習しました。どんなにすばらしい先生でも草津に思いをもった人がつくった草津の歌には適いません。聴いた人の心に染み入る歌です。草津を案内する「たび丸音頭」も市内の小学校の運動会で使ってもらえたらいいのと思うくらい良い曲。

長谷川さんにはもつともつとみんなの心に残る草津の歌を書いてもらいたいですね。



旧草津川堤防▶



くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。

どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる今ドキご近所のちょとこなれた毎日。

楽しくも少し考えてしまう。もしかして…これって、みんなの問題かも。



さく・com-com / え・まんじゅう

へえ～、そうかい？

おばあちゃん、ハリぎっています。

趣味や特技なんて大上段に構えなくても、人は誰しも「人よりちょっと得意なこと、知っていること」というのが何かしらあるものです。人生経験や仕事を通じた経験を豊富に重ねてきた高齢者なら、なおさらです。ただ、本人にとってはあまりに当たり前すぎて、このおばあちゃんのように自分では気づかずに、人に言われて初めて知る、なんて人も多いようです。

地域に目をやると高齢化や核家族化、施設や家屋の老朽化などからちょっとした困りごとが増えてきました。階段の昇り降りがきつくなってきた人、パソコンやスマホで孫たちとコミュニケーションをとりたい人、ゴミの集積所や家施設の補修、料理に手芸に園芸に…。業者さんをお願いするほどでもないちょっとした困りごと、注意深く見つめれば意外と多いものです。つまり、まちの中に「手伝える人」と「手伝ってほしい人」が混在しているわけです。もったいない話です。そこに気づいて、つなぐことができれば、困りごとの解消だけでなく、ずいぶんと人と人のつながりも豊かになるものです。

では、どう気づくか。「あなたの趣味は何ですか？特技はありますか？」なんて面と向かって聞かれても答えづらいもの。何気ない会話や日常の光景の中から注意深く探してみましょう。花壇にきれいな花が咲いている家には園芸名人が、家の中がいつもきれいに片づいているなら、収納名人やお掃除名人がいるのかもしれません。町内で文化祭を開くと情報もたくさん集まりそうです。「年寄りが一人亡くなることは、街の図書館が一つなくなったようなものだ」とはヨーロッパの格言。そうなる前に始めたいものです。

ちなみに私 (com-com) は古新聞の括り方ならお手の物です。

これってやっぱり、みんなの問題。

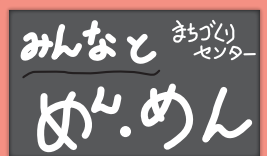
That's 談



趣味を活かす

「趣味や特技」についてのつぶやき・エピソードを集めてみました。

- 地元で伝わる民話や歴史をまとめた「ふるさとのかほり」は、常盤の読書グループ「松葉会」でまとめられたもの。手作り紙芝居もある。
- 志津では毎年、菊づくり講座を開いている。講師は、しめ縄づくりも達人らしく朝の連ドラの演技指導にも行ったと聞く。
- 笠縫では「よもやま劇場」というシニア世代のグループがある。「劇場をあなたの近くの公民館へ！」をキャッチフレーズに、ライブ演奏やマジックなど多彩な特技を地域に提供している。スゴイ。
- 毎年、ふれあいまつりで臼と杵で「もちつき」をしてくれる人がいる。小学校や学区・市民センターなどのイベントの際にはいつも協力してくれる頼もしいボランティア。
- 地元のパソコンの達人が高齢者や初心者に教えてくれている。個人のペースや技術に合わせてくれるので、わからないことも質問しやすいと好評。
- 絵の得意な人が、ひと昔前の地域での暮らしの様子や懐かしい風景を描いている。絵を観て高齢者の思い出話に花が咲いている。



和・輪・What

このコーナーは、まちづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。運営協議会は、それぞれ自身の活動から少し離れて「みんなの場所」としての、センターの役割やまちのことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長する場所です。

変わるもの・変わらないもの

市民活動は人に、まちに、そして時代に寄り添うもの。だからこそ、大切にしている活動もその時々でカタチを変えていくことがあります。いや、柔軟に変えることができるのはむしろ市民活動の醍醐味でもあります。その根底にあるのは、何があっても変わらない「思い」。

今回は市民活動の「変わるもの」と「変わらないもの」をお伝えします。

大切なものは目に見えない——故郷を大切にする会——

他府県からの移住も多い草津。故郷をキーワードに草津のまちづくりを進める「故郷を大切にする会」が大切にしている活動の一つが「故郷まつり」です。全国各地の物産を通して故郷を語るこの催し、年々人気が高まりつつあった2011年、あの東日本大震災が起こりました。さすがに自粛ムードが漂い始めたとき、被災した伊達市（福島県）の観光物産協会の方との出会いがありました。この縁は「今こそ、故郷まつりが必要なんだ」との勇気につながりました。「小さな一石です

が、自分たちが培ってきた活動が遠く故郷の再生に奮闘されている方々の勇気につながったことは驚きでもあり、嬉しさで一杯でした」と代表の小見山さんは振り返ります。この縁で今年でも毎年、伊達市との交流は続いています。

故郷まつりの内容は特に大きな変化があるわけではありません。でも、そこにはこれまで以上に「故郷」を大切にしたい、そのことが誰かの勇気へとつながっている自負といった目に見えないものが加わりました。

この交流がきっかけとなり、草津市と伊達市との間に友好交流協定が結ばれました。



吹矢草津同好会

6~10m先の的に息を吹いて矢を放ち得点を競う「スポーツ吹矢」。腹式呼吸と胸式呼吸を使い精神力・集中力が養えるだけでなく、軽い運動量で年齢を問わず気軽に始めることができるのも人気です。

現在のメンバー

は50~70代。健康づくりとおしゃべり、時にはミニゲームを考案して仲間と楽しみながら活動しています。スポーツが苦手な人も、運動をするのが難しい人も始められるスポーツ吹矢で、より多くの人の心と体の健康づくりに取り組んでいます。



みんなとめん・めん 通算52号

問合せ ● まちづくりセンター ☎ 562-9240 ☎ 562-9340

✉ machi@kusatsu.or.jp

スマイ印刷は、自然環境を守る地球に優しい製品づくり「エコ印刷」に取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com

本社：520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス：103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1：528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

読売新聞



草津五店会 TEL 077-568-2146



より道 こ道



「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

第7回・北山田 湖への道

石田 はま子

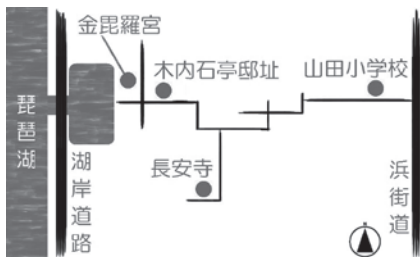
山田小学校から北山田港への道筋に「考古学の祖 木内石亭」の貼紙を見かけました。「石の長者」とも称された石亭は江戸時代の人。奇石の収集家で知られ、「東海道名所図会」にも紹介されました。収集した石を分類し『雲根

志』を著しています。当時、北山田の彼の屋敷はさながら石の博物館、多くの人が訪れました。ちなみに日本地図を最初に作った伊能忠敬もその一人です。港近くの屋敷跡には、「木内石亭邸址」の碑が

建ち、隣には貴船宮・常夜灯・石垣があることから、昔はこちらが湖岸であったことを示しています。

夏は漁が休みです。6月の「水産まつり」で賑わった港も今は静か。多くの漁船が繋がれています。対岸には比叡山、長等山、音羽山と続く山並みを望みます。中世の山田港は、志那・矢橋と共に草津三港の一つに数えられ、坂本・大津へと結ぶ重要な港でした。日光東照宮に参拝する比叡山の使節が通った港から草津宿までの道は、「日光街道」と呼ばれました。港近くに海上交通の守り神・金毘羅宮が祀られています。

近くに建つ浄土真宗本願寺派・長安寺は、織田信長と石山本願寺の戦（石山合戦）の折、湖南門徒の拠点となり琵琶湖から大阪へと応援物資を船で運びました。境内に宗祖・親鸞聖人の石像が建ちます。そうそう、「山田」とはその昔、そこが比叡山の荘園であったことから付いた地名だとか。



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津
くらし何でも相談
TEL:077-564-5512

住所：草津市大路1丁目1-1 TEL:932 4F406

センターへの相談は無料です。

- > くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- > くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- > くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- > くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522



株式会社 三井田商事

JR南草津駅前に移転しまして6年目を迎えました。
弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、企業・一般の方への水の宅配事業も展開しております。弊社も地域と共に発展したいと考え、

土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施しております。
今後も地域に貢献し、共に成長していけるよう
日々努力して参りたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

そのまちに… いくと ICT



ICTがやってきた。

ずいぶん身近に、わかりやすくなったICT(情報通信技術)。今こそ、あなたのまちのコミュニティに活かすチャンスです。そんな事例を毎回ご紹介します。

アプリ 妖怪カメラ

今回もアプリを使ったまちおこしを紹介します。妖怪が通りを行進するという怪異伝説をもとに「妖怪」をテーマに活性化を図る京都の大將軍商店街。ここでは、妖怪との出会いを疑似体験できるアプリ「妖怪カメラ」を地元ソフト会社の協力で開発しました。この妖怪カメラで通りをのぞくと、商店街の端から端まで妖怪が現れるしかけて、商店街の集客が期待されています。

また、費用はネットで呼びかけ、企画に賛同した人たちから集めたとか。この技術、まちを歩くだけで昔の街なみや暮らしを見ることができたり、危険な場所がわかったりと色々活用も期待できそうです。ICTを使ったまちおこしの事例が増えています。

ひとまちキラリ ~まちづくり活動助成~



創意工夫あふれる魅力的なまちづくりをすすめるため、市民による自主的で公益的なまちづくり活動への助成を行っています。

募集期間 ~11月28日(月)まで**必着**

助成期間 平成29年4月から2年間
(ただし2年目は審査で継続が認められた場合のみ)

- **立ち上げ支援** 上限10万円(2年目20万円) 3団体
- **連携・協力** 上限20万円(2年目30万円) 1団体

公開ヒアリング

12月17日(土)9:30~

まちづくりセンター ふらっとサロン

約5分間の提案者の発表。ぜひ熱い思いを見に来てください。

問合せ

(公財)草津市コミュニティ事業団まちづくり振興課
草津市西大路町9番6号
☎565-0477 ☎562-9340
HP <http://kusatsu-spp.net>

みんなの音楽会2016 草津クリアホール

オーケストラと歌おう

市民公募合唱団と草津チェンバーオーケストラによる
クリスマスコンサート

12月24日(土) 14:00~16:00

草津クリアホール

出演 クリアホールスペシャル合唱団
草津チェンバーオーケストラ
宅間司(指揮) ほか

合唱曲

- ❖ B.ブリテン Hodie(《キャロルの祭典》より)
- ❖ J.ラター For the beauty of the earth
- ❖ G.F.ヘンデル Hallelujah
- ❖ J.ラター 永遠の花 ほか

料金 前売 1,000円/当日 1,500円
草津クリアホール・草津アマカホールにて販売

問合せ

草津アートセンター(草津アマカホール内)
草津市草津3丁目13-30
☎561-6100 ☎561-2493
HP <http://amicahall.net>

草津

草津の冬の風物詩といえば琵琶湖岸にやって来るコハクチョウやカモたち。毎年12月中旬くらいにロシアからやってくる美しいコハクチョウを湖岸でそっと見守る人たちも。あれっ、あきらかにおかしいところが3つあります。わかるかな。



イラスト：大村恵（編集ボランティア）

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募もお待ちしています。

〆切 **11月15日(火)** 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号
 (公財)草津市コミュニティ事業団「コミュニティくさつ11月号」係
 ☐ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎562-9340

プレゼント

正解者の中から抽選で「なごみの郷」施設内、軽食・喫茶「和味屋（なごみや）」のお食事券（1000円分相当）を5名様にプレゼント。

和味屋（なごみや）さんが第4回粉もんグランプリで優勝。

土・日・祝日に限り受賞メニュー「とつてもとろろ焼き牛すじバージョン」が味わえます。

前回の答え



たくさんのご応募ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

- わかくさ号は緊急車両ではないのでパトライトは付いていません。
- さすがにこの時代、馬に乗った殿様が来たらビックリしてしまいますね。
- 扱っているのは本だけです。スイカは置いていません。

Next きみたちの草津

次代の草津を担う若い人たちの眼に、ここ“草津”はどのように映っているのでしょうか。見えてくる明日の草津の姿があります。

草津でてるてるクラブ

代表 **大塚佐緒里さん** 愛媛県松山市出身

草津に住んで5年、子育てを始めて3年。草津は都会っぽさと田舎っぽさがちょうど良い加減でとても住みやすいですね。

先輩ママたちが子育てサークルや親子で楽しめる場を作ってくれていたことでも恵まれていると感じました。そこで出会った仲間と今年3月、地域の農家から畑を借りて、親子で野菜の栽培や自然体験をする「草津でてるてるクラブ」を立ち上げました。生産者の思いや苦勞を子どもたちとともに経験しながら、農家さんだけでなく地域の人も関わりながら地域の中でする子育て、そんな場づくりを目指しています。

今度は私たちが新しくチャレンジしようとしている人を応援していく番です。大人がやりたいことにチャレンジする姿、一生懸命な姿で子どもたちの「やりたい!」気持ちを刺激する。子どもたちには「やりたい!」ことを見つけて、挑戦してほしい。

大人も子どもも「やりたい!」ことに挑戦できるまち、「誰もが特技やスキルを活かせるまち」「いろんな人がつながりをもてるまち」そんな草津になってほしいですね。



ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

サンタさんをお願い



ロクハ荘

アミカホール

まちセン

なごみの郷

クリアホール

ロクハ公園

熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第23回

「八十六歳の
お嬢さん」

熊谷栄三郎



夏、テレビでオリンピックを見ていて、気がついた。私が後期高齢者というせいもあるのか、金メダルと銀メダルの聞き分けができなくなっているのだ。日本選手が「金メダル」とつたというニュースに喜んだら、実は「銀メダル」だったということが何度かあった。これまで、こんなことはなかった。

聴覚の衰えをぼやいていたら、知人の八十六歳の婦人が「わたしなんか先日、もっとひどい聞き間違いをしましたよ」と言った。

なんでも、バスを降りるとき、運転手さんが「お嬢さん、ありがとうございますございました」と言ったというのである。え、もしか、うしろにお嬢さんが？と振り返ってみたら、そんな若い人はいない。

八十六歳の女に気味悪い冗談をいう運転手さんやなと思いつつながら降りて、ちよと歩いてから、あつと気がついたという。運転手さんは本当は「ご乗車、ありがとうございますございました」と言ったのだと。「ご乗車」を「お嬢さん」と聞

き間違えた次第。この聞き間違い、ちよと厚かましくはないか。

次は、私のこと。市営の自転車置き場へ行った時、同じ内容をお知らせしている場内放送が「死んだ人を見かけたなら、係員までお知らせください」と言ったのだ。ギョッ。二度目もそう聞かされた。三度聞き返して、やっとこう言っているのが分かった。「不審な人を見かけたら、係員までお知らせください。私は「フシンな人」の「フ」が聞こえず「死んだ人」と聞いてしまったのだ。

九月、地元の敬老会にでかけた。副市長さんの祝辞の中に、たしか草津市の七十歳以上の老人は二万九千六百人、しかも毎年千人ずつほど増えているとかいう話があった。

「いろんな聞き間違いをする老人もどんどん増えるのかな。なんか、おそろしいな」と言ったら、家人に「おそろしがられんように注意せんといかんのは、もうすぐ七十七歳になるあんたや」と言われた。

読者の声

たくさんのご意見ありがとうございます。

9/15号「その笑顔、まちの未来。」に寄せられた感想から

- より道こ道を楽しみにしています。(68才女性)
- 草津に住み6~7年になります。まだまだ草津について知らないことが多いです。毎回楽しみに読んでいます。(36才女性)
- 子どもたちの自主性を大切にしている学童保育「みんなの家にこに子」が勉強になりました。子どもたちの良いところを認めながら伸ばしていくという考え方が良いと思いました。(74才女性)
- 草津市BBS会大路寺子屋はどんな人たちがどのように活動しているのか、前から気になっていました。大人ではなく大学生だからこそ、できることがたくさんあると思います。地域に根付いた活動を今後も期待しています。(41才女性)
- 草津市BBS会の活動を知りませんでした。うちの子が小学生になったら楽しそうなところがあるよと教えてあげようと思います。(40才女性)
- 「徒然草津」は知らないことも多く、とても楽しく読んでいます。(64才男性)
- わたしも以前にスポ少で指導していたので、スポ少の記事は共感できました。(46才男性)
- 4コマまんが「どっちがどっち」を読んで考えさせられました。世の中が物騒になってきた今、少しずつみんなが助け合い、一人ひとりできることを考えたら町が良くなるのではないかな。(62才女性)

「コミュニティくさつ」は、
みんなで作る
まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身のサークルや団体メンバーに本誌を配布してくれる人



●申込み・問合せ●

(公財)草津市コミュニティ事業団
まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。

- 1回1枠(名刺サイズ)5,000円
- 【コミュニティくさつ】
- 約59,500部発行(年4回)
- 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

●申込み・問合せ● (公財)草津市コミュニティ事業団 ☎565-0477

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市費、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

